

みんなが幸せになるためにスマホを使おう！

子供を信じていれば大丈夫 —— 本当にそれでよいのでしょうか。私たち大人が小学生・中学生だった頃、個人でスマートフォンを持つ文化はありませんでした。だからこそ、スマホに潜む危険に対する「自分の経験」がなく、想像が追いつかないまま“信じるしかない”という状況に陥りやすいのが現実です。

スマートフォンは便利である一方、周囲の人間を巻き込み、一瞬で取り返しのつかない事態を生む可能性がある機器です。

アクション1 他人を巻き込まない

うわさの拡散、軽い気持ちの投稿、グループ内での悪口。「たった1回の操作」が誰かを深く傷つけ、家庭や学校を巻き込み、後戻りできない問題へと発展します。

アクション2 トラブルが起きたら、

ためらわず警察に相談する

人間関係を気にして通報をためらう大人は少なくありません。しかし、その間にも状況は悪化し、子供が追い込まれて

しまうことがあります。守るべきは“関係”ではなく、“子供の安全”です。

アクション3 購入する場合は親と本人の覚悟が大切

子ども用スマートフォンを購入するということは、トラブルが起きた時に“親が解決の中心に立つ覚悟を持つ”ということです。「知らなかった」「子どもが勝手に」「すべて学校で解決してください」は通用しません。

★家族で改めて考えてください。

スマートフォンは本当に必要なのでしょうか？

今、子供が親に質問する機会が減っているといわれています。では誰に質問しているのでしょうか。———— チャットAIです。AIは便利で正確ですが、本来、親子で話すべきことまでデジタルに預けていませんか？スマホが家族の役割を奪っていませんか？

今こそ、スマホの使い方に真剣に向き合ってみてはどうでしょう。



熊谷市立江南中学校生徒指導部・教育相談部

